

## 「フィリピン学生派遣プログラム参加報告書」

京都大学大学院 経営管理教育部 1年

福島 悠介

私は本プログラムに参加することで、産業連関分析を用いた経済分析をフィリピンにおいて行う際に生じる、固有の課題を把握することが出来ました。すなわち、フィリピン経済を分析する際には、交通インフラの整備状況や市場を介さないインフォーマル経済がもたらす経済効果を考慮して分析する必要があることを認識することが出来ました。

私が現在、産業連関分析において行いたいと思っている研究は、通信インフラ未整備等の理由で収集データが不足しており作成が困難である発展途上国の地域の産業連関表を、国全体の産業連関表からいかに推測するかという研究です。この研究に関して本プログラムの参加前は、私はフィリピンの都市部以外の地方の産業連関分析表を推測する際に、いかにしてデータの不足分を補い正確な産業連関分析を行うのかという点にばかり着目しておりました。ところが、本プログラムに参加し、フィリピンにおける開発プロジェクトの実態を学ぶことにより、フィリピン経済において固有に内在する課題を把握することが出来ました。すなわち、フィリピンにおいて経済分析を行う際は、フィリピン経済を担っている交通インフラが未整備であるということが経済全体にどのような影響をもたらしているのかということや、市場を介さない取引であるインフォーマル経済が国の経済に与える影響も含めて、分析を行わなければならないという新たな課題を把握することが出来ました。

一方で、私が大学で研究を行うにあたり、その研究動機を深めるという点においても、本プログラムの参加は非常に貴重な経験となりました。本プログラムの参加前は、フィリピンにおける経済分析の課題（交通インフラ整備の問題や地域間産業連関分析に際して生じる収集データ不足など）に関して、本やインターネットでの情報のみしか得る事が出来ず、その課題を解決する必要性を把握することが困難でした。ところが、本プログラムの派遣後は、フィリピンにおいて交通インフラが整っていない様子を実際に観察し、開発プロジェクト実務者の方々の声を直接聴くことで、それら課題解決の必要性を改めて認識することが出来ました。今後は、フィリピンの地域における産業連関分析のデータ不足に対して、いかに対処していくのかという課題に対して、その必要性を十分に認識しながら、大学の研究において今回の経験を活かしていきたいと思っております。